<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>知と表現のデザイン</td><td rowspan="5">担当教員</td><td rowspan="5">西﨑　伸子
千賀　喜史
平田　知之
井原　麗奈
近藤　のぞみ
野津　直樹</td></tr>
<tr><td>必修の区分</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>授業の方法</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>1 年 第 1･3 クォーター</td></tr>
<tr><td>講義内容</td><td colspan="3">高校までの学習と大学での研究の違いを意識して､主体的に協働して学ぶ技術と態度を育てる。情報収集、発信、一般的な知識と技術を習得するとともに、チームで協働して、地域の課題を発見し、実際に足を運んで情報を収集し、考察を加え、報告書や発表会などで発信するプロジェクト型の学習を通して、学んだ知識や技術を、将来のキャリアに活かすための実践的な体験をする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">以下のようなアカデミックスキルを身につけ、大学生として必要な、自ら課題を発見して適切に情報を収集し、的確に発信する態度と能力を培う。
・大学での学習方法（ノートテイキング、学習環境整備等）
・データや文献の検索、収集、読解、集計、整理の方法
・協働学習の方法
・発信の方法（レポートの書き方、プレゼンテーション）</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">第１回 大学で学ぶということ（受動的な学習から主体的な研究へ）
第２回 講義の活用法、ノートの作り方、学習環境の整備、情報機器の使い方
第３回 データや資料の検索、収集法 図書館の使い方、文献一覧の作成
第４回 アカデミックリーディング（事実・推測・意見／主張・解説の区別）
第５回 アカデミックリーディング（パラグラフの構造、接続、配列、要約）
第６回 アカデミックリーディング（理由、原因、根拠、批判的読解）
第７回 研究倫理
第８回 但馬地域研究（地域の概要を知る）
第９回 但馬地域研究（問を立てる）
第 10 回 但馬地域研究（フィールドワークを企画する）
第 11 回 但馬地域研究（訪問先への質問を考え、アポイントメントをとる）
第 12 回 中間発表、前期まとめ
第 13 回 但馬地域研究（フィールドワークの口頭報告）
第 14 回 但馬地域研究（資料の整理）
第 15 回 アカデミックライティング（レポートの構成、データの整理集計）
第 16 回 アカデミックライティング（引用の仕方、注のつけ方、データ活用）
第 17 回 但馬地域研究（報告書の作成）
第 18 回 但馬地域研究（報告書の仕上げ）
第 19 回 アカデミックプレゼンテーション（口頭発表の仕方）
第 20 回 アカデミックプレゼンテーション（ポスターの作成法）
第 21 回 但馬地域研究（プレゼンテーションの準備）
第 22 回 但馬地域研究（プレゼンテーションの仕上げ）
第 23 回 但馬地域研究発表会
第 24 回 全体振り返り
☆授業計画は変更することがある。クラス担任が１Q 初回の授業で説明する。</td></tr>
<tr><td>事前･事後学習</td><td colspan="3">クラス担任が適宜指示するが、予習・復習として、事前調査や事後課題、レポートの提出を行うこと。</td></tr>
</table>

テキスト	担当教員より適宜指示する。例）『アカデミックスキルズ 第 3 版』佐藤望ほか 3 名編著、慶應義塾大学出版会,2020
参考文献	クラス担任が適宜指示する。
成績評価 の 基 準	授業・グループワークへの主体的、協同的な参加（50%）、レポート提出（50%）
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	